

裾野市

生成AIを活用した 課題解決手順書

～ 学びを広げ、未来を創る一歩 ～



令和8年度版

◆ 目次 ◆

- ① 手順書の位置付け ― この手順書について ―
- ② 生成AIの安全な使い方
- ③ 生成AIでできることの紹介
- ④ 生成AIを活用した課題解決のステップ
- ⑤ プロンプトの成功・失敗例
- ⑥ みなさんへのメッセージ

① 手順書の位置付け — この手順書について —



**ChatGPT (チャットジーピーティー)・
Gemini (ジェミニ) など
生成AIを
安心・安全に使うための
ガイドブックだよ!**



問いを立てる力



自分の言葉で考える力

この手順書でできること

- ◆ 生成AIの機能と注意点を理解して安全に活用できる
- ◆ 文章・アイデア・画像などを生み出して活動に活かせる
- ◆ 身近な課題を見つけて解決策を考える手順がわかる



- ・この手順書は、裾野市の事業の一環として作成された、生成AI活用に関する手引きです。
- ・最近では、「ChatGPT（チャットジーピーティー）」や「Gemini（ジェミニ）」といった生成AIを、SNSや動画、ニュースなどで見かけることが増えてきました。
- ・でも、「名前は聞いたことがあるけど、どう使うのか分からない」「使っているのか心配…」という人も多いと思います。正しく使えば、生成AIはとても役立つ道具です。この手順書では、生成AIをよく知らない人が使い始めるにあたり、安心・安全な使い方や学び方を、やさしくまとめています。

■ この手順書でできるようになること

- ◆ 生成AIの基本的な機能や注意点を理解し、安全に活用できるようになる
- ◆ 生成AIを使って文章やアイデア、画像などを生み出し、創造的な活動に活かせるようになる
- ◆ 自分で身近な課題を見つけて考え、生成AIを使いながら解決策を考える手順がわかる

📋 使ってよい場面・使ってはいけない場面

✓ 使ってよい場面の例	✗ 使ってはいけない場面の例
授業外の自習・調べ学習のヒント探し	定期考査・実力テストの解答
探究学習のアイデア出し（下書き段階）	先生から「自分の力で」と指示された提出物
自分で書いた文章の読みやすさチェック	読書感想文・作文をそのまま提出

生成AIは"学習の楽をする目的"で使用してはいけません。

■ この手順書の考え方

- ◆ 生成AIを使うと、考えなくても答えが出てくると言うかもしれませんが、この手順書では「問いを立てる力」や「自分の言葉で考える力」を大切にします。
- ◆ 生成AIは「考えることを代わりにやってくれる存在」ではなく、考えを広げたり整理したりするための道具です。
- ◆ この手順書は正解集ではありません。
- ◆ 大切なのは、「何を解決したいのか」「誰のためなのか」を自分でしっかり考え、対話を通じて、自分自身の考えを磨いていくことです。

そもそも、生成AIってどんな仕組み？

「ChatGPT」や「Gemini」などの生成AIは、インターネット上にある膨大な文章や画像などのデータをもとに、「次にくる言葉として自然なもの」を予測しながら文章を生み出しています。

つまり、生成AIは「本当のことを知っている」わけではなく、「それっぽい言葉のつながりを予測している」のです。

だから…

- ◆ 自信満々に間違えることがある（ハルシネーション）
- ◆ 最新の情報が含まれていないことがある（学習データに時間のずれがある）
- ◆ 同じ質問をしても、毎回少し違う答えが返ってくる

このことを知っておくと、生成AIの答えを「参考にする」距離感で使えるようになります。「賢い道具」ではあるけれど、「正しいことをいつも教えてくれるもの」ではない—— そう思って使いましょう。

① 生成AIの安全な使い方



最低限これだけは知っておこう！

 **ハルシネーション**
もっともらしい間違いのこと

- × 実在しない統計データを出す
- × 存在しない法律を説明する
- × 人物について誤った説明をする

⚠️ 必ず公式サイトで確認しよう！ ⚠️

 **個人情報 NG**

- × 本名・住所・電話番号・メール
- × 学校内だけの情報
- × 友達・家族・先生の情報

✓ 工夫：引用『友達A』など架空の名前を使おう

 **著作権・ルール・マナー**
出てきた内容はそのまま使わず
自分の言葉に書き直そう

生成AIは間違えることがある / 個人情報は入力しない
ルールを守る / 最後に判断するのは人 ✨

ー 安心して活用するために、最低限知っておいてほしいこと ー

生成AIは、文章や画像、アイデアなどを素早く生み出してくれる便利な道具です。一方で、使い方を誤ると、間違った情報を信じてしまったり、個人情報やルールの問題が生じる可能性もあります。ここでは、皆さんが生成AIを活用するうえで必ず押さえておいてほしい注意点を整理します。

①-1 ハルシネーション（もっともらしい間違い）

生成AIは多くのことに答えてくれますが、事実ではない内容をあたかも本当のように答えてしまうこともあります。この現象を「ハルシネーション」と呼びます。

よく起こりやすい例

- ◆ 実在しない統計データを出す
- ◆ 存在しない制度・法律を説明する
- ◆ 人物や団体について誤った説明をする

気をつけるポイント

- ◆ 生成AIの回答は必ず正しいとは限らない
- ◆ 特に以下の内容は、そのまま信じない：数字・統計／ルール・法律／実在の人物・団体・制度

<対策>

- ◆ 他の資料や公式サイトで必ず確認する
- ◆ 「本当に正しい？」と一度立ち止まる
- ◆ 分からないときは周囲の大人に相談する
- ◆ 例えば、生成AIの答えが「ちょっと変かも？」と感じたときは、政府や自治体の公式サイト（例：総務省統計局、こども家庭庁など）や、学校の教科書などを参考に調べてみましょう。

生成AIは「調べるきっかけ」や「考えを広げる道具」として使い、最終的な判断は人が行うことが大切です。

⚠ 最優先：プライバシー保護

①-2 個人情報・プライバシーの取り扱い

個人が特定できる情報は入力しないように気をつけましょう。サービスや設定によっては入力した内容がAIの学習に使われる場合があります（使用するサービスや先生の指示に従いましょう）。

入力してはいけない情報の例

- ◆ NG：本名、住所、電話番号、メールアドレス
- ◆ NG：学校内だけで共有されている情報
- ◆ NG：友人・家族・先生など、他人の個人情報

課題解決で使うときの工夫

- ◆ 実名を使わず、架空の設定に置き換える
- ◆ 「〇〇市の中学生」など固有名詞は使わず、一般的な表現にする
- ◆ 例えば友達の名前を出したいときは、「友達A」「近所の中学生」などと表現する
- ◆ 学年・クラス・部活など、**複数の情報を組み合わせると個人が特定されることがあります**。一つひとつは問題なさそうな情報でも、組み合わせて入力しないようにしましょう。

①-3 著作権・ルールやマナー

生成AIが作った文章や画像でも、すべてが自由に使えるわけではありません。ほかの人が作ったものに似すぎてしまうと、著作権の問題になることもあります。また、提出物や発表で使うときには、見る人にとってわかりやすく、誤解を生まない使い方が大切です。そのためにも、ルールやマナーを守って使うようにしましょう。

こんな使い方はNG — 失敗例 —

- ◆ ✕ 読書感想文の課題で、生成AIに本を要約させてそのまま提出した。

→ 自分で読み、自分の感想を書くことが課題の目的です。

- ◆ ✕ 社会の授業でAIが作った文章をそのままノートに書き写した。

→ 引用であれば出典を明記し、理解してから使いましょう。

- ◆ ✕ イベントのポスター用に生成AIで作った画像をそのまま掲示した。

→ 著作権のリスクがあります。使用前に先生に相談しましょう。

✕ 他の人のアイデアや作品を、その人の許可なしに入力してはいけません。

→ 友達が書いた文章・絵・アイデアも、著作権で守られています。「良くしてあげたい」という気持ちでも、本人の了解なく入力することは避けましょう。

OKな使い方の目安

→ 「生成AIを参考にして、自分の言葉で書き直した」と説明できる使い方であれば、多くの場合問題ありません。不安なときは先生に確認してください。

気をつけたいポイント

- ◆ 生成AIが出した内容をそのまま提出することは避ける
- ◆ 他人の作品に似すぎていないかを意識する

対策

- ◆ アイデア出しや下書きとして使う
- ◆ 自分で考えた文章に書き直す
- ◆ 「生成AIを参考にした」と説明できる形にする
- ◆ 例えば、生成AIが作った図や文章を使うときは、必ず自分で考えた文章や表現に置き換えてから使用しましょう

①-4 困ったときは「一人で判断しない」

生成AIの使い方で迷ったり、「これって大丈夫かな？」と感じたときは、**自分だけで判断せず、周りの大人に相談**することがいちばん安全で確実な方法です。

■ この章のまとめ

- ◆ 生成AIは、すべてが正しいとは限らない
- ◆ 個人情報を入力しない
- ◆ ルールを守って使う
- ◆ **最後に判断するのは人**

💡 こんなときも一人で抱え込まないで

- ◆ 生成AIからの返答が気になる・怖い・傷ついた、と感じたら、先生や保護者に話しましょう。生成AIはときに不適切・不正確な内容を返すことがあります。
- ◆ 生成AIの意見が自分の考えと違ってても、それがすべてではありません。生成AIの返答は「参考の一つ」に過ぎません。
- ◆ **「AIに頼らないと何もできない」と感じたら要注意。**生成AIを使う前に、まず**自分で考える時間**を取る習慣をつけましょう。

📄 使える生成AIには「条件」があります

生成AIのサービスは種類によって、**利用できる年齢や、保護者の同意が必要かどうか**が異なります。

- ◆ 多くの生成AIサービスは、13歳未満は利用不可、または保護者の同意が必要です。
- ◆ 学校や自治体が整備した環境（教育用アカウント）以外での利用は、個人情報が外部に流出するリスクがある場合があります。

	ChatGPT (OpenAI)	Gemini (Google)	Claude (Anthropic)
年齢制限	13歳以上	13歳以上	18歳以上
中学生が個人で使える？	△ 保護者の同意が必要	△ 保護者の同意が必要	× 利用不可
学校の教育アカウント経由	○ 学校の設定による	○ Google Workspace for Education	× 現時点では不可

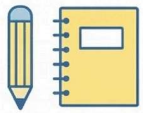
※ 利用条件はサービスにより変更される場合があります。学校で使うときは必ず先生の指示に従いましょう。（2026年7月現在）

② 生成AIでできることの紹介



こんな使い方が
できるよ!

②-1

 **文章**

アイデア出し・キャッチコピー
原稿の下書き・言い換え

②-2

 **画像**

イメージ画像・ポスター
世界観の視覚化

②-3

 **動画**

構成案・ナレーション原稿
場面の整理

②-4

 **音楽**

BGMのイメージ
世界観の雰囲気づくり

②-5

 **開発**

プログラムの下書き
Webページの雛形

まずは使ってみることから始めよう!



— 「こんな使い方ができる」を知るところから始めよう —

生成AIは、難しいことができる人だけのものではありません。アイデアを出したり、伝え方を工夫したりする身近な学びの道具として、すでにいろいろなことに使われています。

②-1 文章



文章を考える・整える

生成AIは文章を作ることもできますが、大切なのは自分の考えを言葉にすることです。
生成AIの提案を参考にしながら、自分の言葉で書き直すことで、伝える力や言語力も伸びていきます。

できることの例

- ◆ アイデア出し（課題解決案をいくつか出す）
- ◆ キャッチコピーを考える
- ◆ 発表原稿や説明文の下書きを作る
- ◆ 文章を分かりやすく言い換える

こんな人におすすめ：何から書けばいいか分からない人、考えはあるけど、言葉にするのが苦手な人。

 **<ポイント>**：出てきた文章をそのまま使うのではなく、生成AIの提案を参考にして自分で言葉を変えることが大切です。

②-2 画像

画像を作る・イメージを広げる

生成AIは、言葉からイメージを作ることもできます。

できることの例

- ◆ サービスやイベントのイメージ画像を作る
- ◆ ポスターやWebページの雰囲気を考える
- ◆ 世界観やテーマを目に見える形にする

こんな人におすすめ：イメージはあるけど、絵にするのが難しい人、チームで完成形のイメージを共有したい人。

 **<ポイント>**：方向性を共有するための下書きとして使うのがおすすめです。

画像生成を使うときの注意

生成AIが作る画像は、見た目はリアルでも、**事実と異なる内容が含まれていることがあります。**

- ◆ 地理的におかしい風景（富士山の後ろにスカイツリーが見える など）
- ◆ 実在しない建物や場所
- ◆ 人物の顔や手が不自然な形になっている

「おかしいな？」と感じたら、そのまま使わずに確認しましょう。画像は文章と違って自分で修正するのが難しいため、発表や掲示物に使う前には**必ず先生に相談**してください。

②-3 動画

動画のアイデアや構成を考える

動画そのものを作らなくても、構成案、ナレーション原稿、必要な場面の整理などの中身を考えるサポートができます。

こんな人におすすめ：動画を作りたいけど、構成が思いつかない人。

 **<ポイント>**：「誰に、何を伝えたいか」を先に決めると、生成AIの提案も使いやすくなります。

②-4 音楽

音楽・雰囲気づくりに使う

イベント用BGMのイメージ作りや、サービスの世界観に合う音の方向性を考えるのに使われています。

 **<ポイント>**：音楽も「完成品」ではなく、イメージを言葉にする補助として活用します。

②-5 開発

プログラムの下書き・Webページの雛形（ひながた）

簡単なプログラムの下書きやWebページの雛形（ひながた）も作れます。サービスの形を具体化するヒントになります。

 **<ポイント>**：分からないまま使うのではなく、「なぜそうなるのか」を確かめながら使いましょう。

 生成AIが作ったコードをそのまま使う前に、**何をしているコードなのかを確認**しましょう。動作が分からない場合は先生や詳しい大人に相談してください。

コラム：授業でも使えるプロンプトのヒント

生成AIは「課題解決」だけでなく、日々の授業でも「考えるヒント」として使えます。答えを聞くのではなく、理解を深めるための問いを投げかけてみましょう。

● 数学（文章題が分からないとき）

「〇〇という文章問題で、なぜ△△という式になるのかが理解できません。この式を立てるために、文章のどこに着目すればよいか、3つのポイントで教えてください。」

→ 答えではなく「考え方のヒント」を得ることができます。

● 国語（感想文・意見文の書き出しに迷うとき）

「『〇〇』を読んで印象に残った場面は△△です。この場面について、どんな切り口で感想を書けるか、アイデアを3つ出してください。」

→ 自分の感想をもとに、展開の方向性を広げるために使います。

● 社会・探究（調べ学習のテーマを絞るとき）

「〇〇について調べたいのですが、中学生が取り組みやすいテーマの切り口を3つ提案してください。」

→ 何を調べるかを決める段階で活用できます。

 どの教科でも共通のポイント：「**答えをください**」ではなく「**考えるためのヒントをください**」と聞くことが大切です。

■ この章のまとめ

生成AIは「何を解決したいか」を決めてくれるものではありません。大切なのは、「**自分はどんな課題に向き合いたいのか**」「**誰の、どんな困りごとを良くしたいのか**」を自分で考えることです。

③ 生成AIを活用した課題解決のステップ



✦ この章について

この章は、「探究学習」や「総合的な学習の時間」など、自分でテーマを決めて考える学習活動で使うことをイメージしています。

「何かを調べて発表する」「地域の課題を考える」「サービスや仕組みを考えてみる」—— そんな場面で、生成AIをどう使えばよいか、6つのステップで整理しました。

各ステップで「考えること」と「生成AIの使い方」はそれぞれ違います。順番に読み進めながら、自分の課題に当てはめてみてください。

— 自分の「問い」を形にするための6つのステップ —

STEP ① 気になることを見つける

— 課題は、身近な違和感から生まれる —

課題解決でいちばん大切なのは、「どんな問いを立てるか」です。生成AIはヒントをくれますが、何に興味を持つか、どんな問いを立てるかは自分自身が決めます。

このSTEPのポイント：いきなり解決策を考えない／正解・不正解を気にしない／気づいたことを言葉にしてみる

▶ このSTEPでの生成AI活用例

× 悪い例

「住んでいる地域の困っていることを教えてください。」

なぜよくない？：自分の関心が入っておらず、他人事になりやすい

○ 良い例

「わたしが通う学校の生徒の立場になりきって、家や学校で『ちょっと不便』『もっとこうならいい』を感じる場面を挙げてください。」

ねらい：課題の「タネ」を広げる

STEP ② 理想の状態を考える

— 「もっとこうなったらいい」を描く —

次に、その違和感がどんな状態になったら解消されそうかを考えます。「今より良い状態」を自由に想像してみましょう。

このSTEPのポイント：解決策を急がない／理想の変化を言葉にする

▶ このSTEPでの生成AI活用例

× 悪い例

「この問題の解決策を考えてください。」

なぜよくない？：理想像が整理されないまま解決に飛んでしまう

○ 良い例

「今の状態と比べて、『もっと楽しい』『もっと便利』『もっと安心』になるとしたら、どんな変化が考えられますか？」

ねらい：理想の姿を具体化する

STEP ③ 誰のための課題かを決める

— 主語を「まち」から「人」にする —

理想の状態が見えてきたら、具体的な一人を思い浮かべることで、課題が明確になります。

このSTEPのポイント：年齢や立場を具体化する／その人の一日を想像する

▶ このSTEPでの生成AI活用例

○ 良い例

「あなたが知っている中学生で、放課後の過ごし方に困っていそうな友達を一人思い描き、その人の一日の様子を簡単に描写してみてください。」

ねらい：利用者像を具体化する

STEP ④ 現状と理想の差を考える

— なぜ、まだ実現できていないのか —

次に、今はどうなっているのか、なぜ理想との差が生まれているのかを整理します。

このSTEPのポイント：表面的な理由で終わらせない／原因を分けて考える

▶ このSTEPでの生成AI活用例

○ 良い例

「この理想がまだ実現できていない理由を、『情報』『仕組み』『人の行動』の観点で整理してください。」

ねらい：原因を分解して考える

STEP ⑤ 解決の方向性を考える

— まずは小さな一歩を考える —

理想に近づくためにできそうなことを考えます。完璧を目指す必要はありません。

このSTEPのポイント：完璧を目指さない／いくつかの案を比べてみる

▶ このSTEPでの生成AI活用例

○ 良い例

「この課題に対して考えられる取り組み案を3つ出し、それぞれのメリットと注意点を簡単に整理してください。」

ねらい：自分で選ぶ材料を増やす

STEP ⑥ サービス・取り組みの形にする

— 考えたことを「伝わる形」にする —

最後に、これまで考えた内容をまとめ、他の人に伝えられる形にします。

このSTEPのポイント：誰に伝えたいかを意識する／一番伝えたいことを一つに絞る

▶ このSTEPでの生成AI活用例

○ 良い例

「以下の内容をもとに、中学生にも分かりやすいサービス説明文の下書きを作ってください。：・誰のための取り組みか／どんな課題を解決するか／どんな体験ができるか」

■ この章のまとめ

- ◆ 課題解決は、いきなり「答え」や「形」から入らない
まず「気になること」を見つけること、「誰のために？」を考えることが大切。
- ◆ 各STEPで考えることが違う
- ◆ 生成AIは、考えを前に進めるための補助
- ◆ **問いを立て、選び、決めるのは自分自身**

④ プロンプトの成功・失敗例



書き方を変えると
結果が変わる!

× 失敗例	✓ 成功例
地域の 困っていることを 教えて 😞 あいまい • 主語がない • 状況が不明確 • ぼんやりしすぎ 	学校の生徒の 立場になりきって 「ちょっと不便」な 場面を3つ挙げて 😊 具体的! • 立場が明確 • 数を指定している • 状況が具体的 

★ 誰が・何を・どんな状況を具体的に書こう! ★

■ 「プロンプト」って何？

「プロンプト」とは、生成AIへの「指示文」や「質問文」のことです。

たとえば、生成AIに「地球温暖化の原因を教えてください」と入力するとき、この文章全体がプロンプトです。

プロンプトの書き方を少し工夫するだけで、生成AIの返答は大きく変わります。次のページでは、その具体的な例を見てみましょう。

生成AIは、質問の仕方によって答えの内容や分かりやすさが大きく変わります。

最初から上手に質問を書くのは、誰にとっても簡単ではありません。

ここでは、生成AIへの質問を少し工夫することで、回答がどのように変わるのかを例で紹介します。

例① 調べものをするとき

✖ 失敗例

【入力したプロンプト】

地球温暖化について教えて

【生成AIの回答例】

地球温暖化とは、地球の平均気温が上がる現象のことです。
主な原因は二酸化炭素などの温室効果ガスです。

👉 内容が広すぎるため、知りたいことがはっきりした答えになりにくいことがあります。

なぜうまくいかない？

- ◆ どんなことを知りたいのか分からない
- ◆ 誰向けの説明か分からない
- ◆ どのくらい詳しく知りたいのか分からない

✔ 成功例

【入力したプロンプト】

小学生にも分かるように、
地球温暖化の原因を3つ説明してください。
※「誰向けか」を指定すると回答の難易度が変わります。自分に合ったレベルを指定してみましょう。

【生成AIの回答例】

- ・ 車や工場から出る二酸化炭素
- ・ 森林が減ってしまうこと
- ・ 電気やエネルギーをたくさん使う生活

👉 知りたい内容を具体的にすると、分かりやすい回答になります。

例② アイデアを考えるとき

✕ 失敗例

【入力したプロンプト】
イベントのアイデアを教えて

【生成AIの回答例】

- ・スポーツイベント
- ・音楽イベント
- ・フードフェス

👉 内容が広すぎて、具体的なアイデアになりにくいことがあります。

✓ 成功例

【入力したプロンプト】
中学生が楽しめる学校イベントのアイデアを3つ考えてください。
雨の日でも実施できる内容にしてください。

【生成AIの回答例】

- ・クラス対抗クイズ大会
- ・体育館で行うミニ運動会
- ・謎解きゲームイベント

👉 条件を具体的にすると、より役立つアイデアが出やすくなります。

例③ 生成AIの回答をそのまま信じない（ハルシネーション）

①で説明した「ハルシネーション（もっともらしい間違い）」は、実際にはこんなふうに起こります。

生成AIの回答はそのまま信じるのではなく、自分で確認することが大切です。

✕ 失敗例

【入力したプロンプト】
日本で一番人口が多い市はどこ？

【生成AIの回答例】
日本で一番人口が多い市は大阪市です。

👉 実際には **横浜市** が最も人口の多い市です。
このように、生成AIがもっともらしい間違いを答えることがあります。

✓ 改善例

【入力したプロンプト】
日本で人口が多い市を上位3つ教えてください。
できれば人口の目安も書いてください。

【生成AIの回答例】

- ・横浜市
- ・大阪市
- ・名古屋市

👉 情報を整理して質問すると、内容を確認しやすくなります。
さらに、公式サイトや信頼できる資料で確かめることが大切です。

■ この章のまとめ

★ 良いプロンプトを書くコツ

プロンプトを書くときは、次の4つを意識しましょう。

- ① 誰が
- ② どんな場面で
- ③ 何をしてほしいか
- ④ どのくらい（数・長さなど）

を具体的に書くことで、生成AIの回答はより分かりやすく、役立つ内容になります。

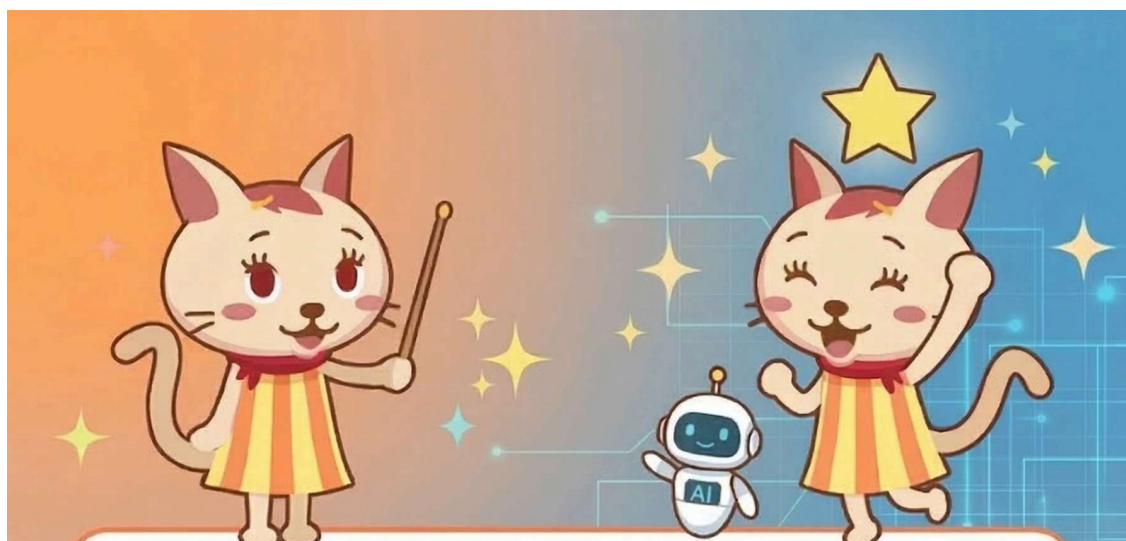
最後に覚えておいてほしいこと

生成AIは、一度質問して終わりではありません。

質問を少しずつ工夫しながら対話していくことで、より良い答えを得ることができます。

また、生成AIの答えは**一つの見方・意見**に過ぎません。特に社会問題・倫理的なテーマについては、生成AIの回答だけを信じるのではなく、複数の情報源で確かめることが大切です。

⑤ みなさんへのメッセージ



『やってみたい』から、次の一歩へ



うまくいなくて、
当たり前。

考えが止まる時間も
ちゃんと学びの一部



大事なのは
『正しい答え』より
『自分の問い』

問いを持てた時点で
課題解決は始まっている



まずは、小さくやってみよう

今日 気になったことを
一つ書いてみよう

☆☆☆

キミの未来は、ここから始まるよ!

「やってみたい」から、次の一歩へ

ここまで読んでくれて、ありがとうございます。この手順書では、生成AIを使って「すごいものを作る」ことよりも、**自分で考え、試し、前に進むこと**を大切にしてきました。

■ うまくいかなくて、当たり前

課題解決は、最初からうまくいくものではありません。何をテーマにすればいいか分からない、しっくりこない、考えが途中で止まってしまう。そんな時間も、ちゃんと学びの一部です。生成AIは、答えをくれる先生ではなく、一緒に考える相手だと思って使ってみてください。

大事なのは、「正しい答え」より「自分の問い」。

生成AIは、聞かれたことには答えてくれます。でも、何が気になったのか、なぜそれを変えたいと思ったのか、誰のために良くしたいのか。こうした問いを考えることは、生成AIにはできません。その問いを持てた時点で、あなたの課題解決は、もう始まっています。

■ まずは、小さくやってみよう

最初の一步は、小さくても大丈夫です。今日気になったことを一つ書いてみる、プロンプトを一つ試してみる、友達や先生に話してみる。大きなアイデアよりも、動いてみることのほうが、次につながります。

■ 保護者の方へも

この手順書は、保護者の方とも読み合わせていただけると嬉しいです。家での生成AI利用について、ぜひご家族でルールを話し合ってみてください。

■ 最後に

生成AIは、これからもっと身近になります。だからこそ大切なのは、「生成AIに何をさせるか」ではなく、「自分は何を考えたいか」ということです。この手順書が、皆さんが自分の問いを見つけ、学びを広げるきっかけになれば嬉しいです。

この手順書について

この手順書は、生成AI技術の急速な変化に合わせて、**定期的に内容を見直す予定**です。

- ◆ 改訂の目安：年1回以上（大きな変化があった場合は随時）
- ◆ 最新版の確認：裾野市のホームページで公開します

生成AIを取り巻く環境は、数か月で大きく変わることがあります。「この手順書に書いてあること」が常に最新とは限りません。新しい情報や疑問は、先生や信頼できる大人に確認するようにしてください。

令和8年度版 ※次回改訂予定：令和9年度

裾野市 生成AIを活用した課題解決手順書

なお、この手順書は裾野市の事業の一環として、ライフイズテック株式会社の協力により作成しました。

この手順書の改訂版は、裾野市内の先生方からいただいた丁寧なご意見・ご感想をもとに作成しました。

制作：ライフイズテック

編集：裾野市総務部デジタル統括課

発行月：2026年7月